



第65回 日本生殖医学会九州支部会

会 長

堂地 勉

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 生殖病態生理学

● 第65回 日本生殖医学会九州支部会 ●

日 時：平成20年 4 月27日(日) 9:00～15:32

評 議 員 会	9:00～ 9:20
総 会	9:20～ 9:30
一般学術講演会	9:30～12:39
	13:40～15:32

会 場：エルガーラホール 7 階中ホール

福岡市中央区天神1-4-2

TEL (092)711-5017

会 長 堂地 勉

(鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 生殖病態生理学)

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

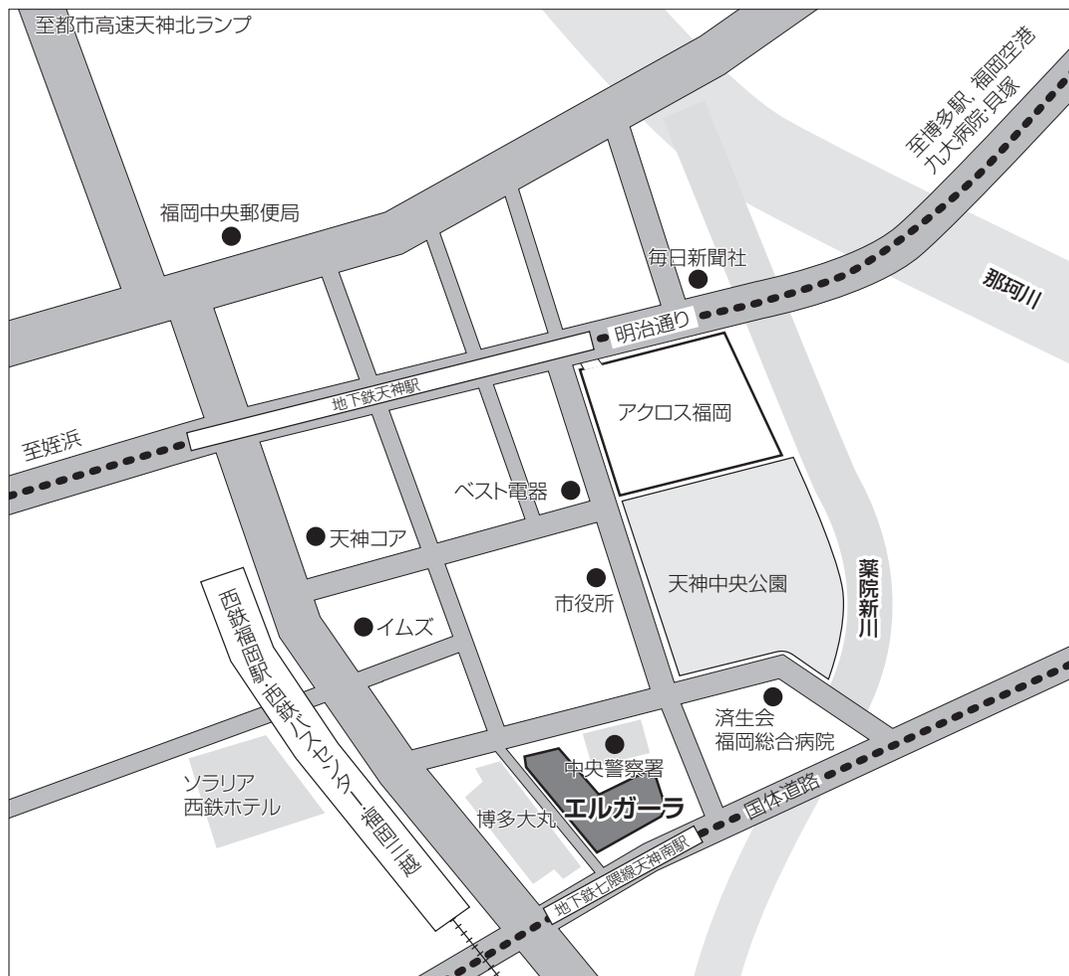
TEL 099-275-5423

FAX 099-265-0507

〈注〉

1. 参加費 3,000円
2. 発表時間は発表5分・討論2分です。時間厳守をお願いします。
3. 発表はPC パソコンによる発表のみとさせていただきます。
必ずパソコンをお持ち下さい。
4. 学会当日はこのプログラムを必ず持参してください。
5. 質問がある方は予め質問マイクの近くに待機しておいてください。

会場案内



- | | | | |
|-------------|--------|----------|----------|
| ●地下鉄天神駅より | 徒歩 5 分 | ●JR博多駅より | タクシー 10分 |
| ●西鉄福岡駅より | 徒歩 3 分 | ●福岡空港より | タクシー 20分 |
| ●西鉄バスセンターより | 徒歩 3 分 | | |

PROGRAM

開会の挨拶 9:30 会長 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科生殖病態生理学 堂地 勉

第1群 [心理と看護] 9:30～9:58

座長 セント・ルカ産婦人科 上野 桂子

1 オープンスペースでの心理的サポートの試み ー ART 後患者へのアンケート調査の実施ー

IVF 詠田クリニック ○愛甲恵利子、関井 智子、谷口加奈子、石田 弘美、
渡辺 久美、本庄 考、詠田 由美

2 当院における体外受精教室の現状 ー教室前後の質問紙調査からー

セント・ルカ産婦人科 ○三重野直美、酒井 操、指山実千代、上野 桂子、
宇津宮隆史

3 不妊治療中に流産となった患者への面接調査

セント・ルカ産婦人科 ○越光 直子、原井 淳子、指山実千代、上野 桂子、
宇津宮隆史

4 ART での妊娠後、出産された方への看護と支援の取り組み

セントマザー産婦人科医院 ○梅本みどり、森 秀子、池本 千恵、岡田 珠実、
北 寛子、田中 温、永吉 基、粟田松一郎、
田中威づみ、姫野 憲雄

第2群 [ART 成績・多胎] 9:58～10:33

座長 高木病院不妊センター 小島加代子

5 当院における年齢による ART の成績の比較検討

ART 女性クリニック ○篠原真理子、小牧 麻美、柴田 典子、小山 伸夫

6 ART consolidated data による年齢と妊娠成績の統計的検討

医療法人 ART 岡本ウーマンズクリニック

○秋吉 俊明、岡本 純英、浜口 志穂、持下 麻子、
峰 尚美、山口ますみ、福田 裕子、林田 琴美、
鶴田 千鶴、山下ひとみ

7 ART 以外の生殖医療で妊娠した二卵性一絨毛膜性双胎の症例

古賀総合病院産婦人科 高度生殖医療センター

○肥後 貴史、高橋 典子、大橋 昌尚、長山 由佳

とえだウイメンズクリニック 戸枝 通保

宮崎大学医学部産婦人科 山口 昌俊、鮫島 浩、池ノ上 克

8 ART 妊娠後の分娩ならびに児の予後に関する調査

竹内レディースクリニック附設不妊センター

○立石こずえ、永井由美子、小田原佳子、内村 知佳、
竹内 美穂、竹内 一浩

9 周産期からみた生殖補助治療後妊娠の検討

福岡大学産婦人科

○伊東 裕子、小濱 大嗣、城田 京子、井上 善仁、
瓦林達比古

第3群 [ART 多胎予防] 10:33~11:01

座長 蔵本ウイメンズクリニック 蔵本 武志

10 初期胚評価から見た胚盤胞到達率

松田ウイメンズクリニック ○小濱めぐみ、川路 珠美、平田 瑠美、伊藤 正信、
松田 和洋

11 単一凍結胚盤胞移植における胞胚腔の回復率と着床率の検討

高木病院不妊センター ○西山和加子、野見山真理、山田 耕平、宮本 恵里、
眞崎 暁子、山本 新吾、塚崎あずさ、有馬 薫、
牧田 涼子、小島加代子

12 分割期複数個胚移植における妊娠率と多胎率に関する検討

医療法人 IVF 詠田クリニック
○泊 博幸、本庄 考、内村 慶子、國武 克子、
池邊 慶子、詠田 由美

13 走査型電気化学顕微鏡 (SECM) を用いたヒト胚の呼吸量測定 of 臨床的有用性

セント・ルカ産婦人科 ○熊迫 陽子、後藤 香里、小池 恵、宇津宮隆史
高度生殖医療技術研究所 荒木 康久
東北大・先進医工学研究機構 横尾 正樹、伊藤(佐々木)隆広、阿部 宏之

第4群 [男性不妊・ICSI] 11:01～11:22

座長 セントマザー産婦人科医院 粟田松一郎

14 改良した光学系機器を用いた、MD-TESE 手術中における精細管組織内所見の観察

セントマザー産婦人科医院 ○粟田松一郎、田中 温、永吉 基、姫野 憲雄、
田中威づみ、竹本 洋一、鉦田 恵理、赤星 孝子
神戸大学農学部動物多様性教室
楠 比呂志

15 非閉塞性無精子症の超音波診断②：クラインフェルター症候群の精巣内超音波像

天神つじクリニック ○成吉 昌一、辻 祐治

16 当院における担癌患者の精子凍結保存の現状

原三信病院 泌尿器科 ○小松 潔、一倉 晴彦、山口 秋人

第5群 [男性不妊・ICSI] 11:22～11:43

座長 原三信病院 泌尿器科 小松 潔

17 精子凍結保存法の検討

竹内レディースクリニック附設不妊センター

○樽松 朋子、遊木 靖人、福元由美子、山田 裕子、
竹内 美穂、竹内 一浩

18 顕微授精後前核形成が認められない症例の検討

セントマザー産婦人科医院 ○田中 温、永本 基、栗田松一郎、姫野 憲雄、
田中威づみ、竹本 洋一、鎌田 恵理、赤星 孝子

弘前大学医学部解剖学第2講座

渡邊 誠二

19 精子頭部の Crater defect と受精能との関係に関する検討

セントマザー産婦人科医院 ○田中威づみ、田中 温、永吉 基、栗田松一郎、
姫野 憲雄、竹本 洋一、鎌田 恵理、赤星 孝子、
川久保里美

神戸大学農学部動物多様性教室

楠 比呂志

第6群 [ART 胚質] 11:43~12:11

座長 長崎市立市民病院 産婦人科 藤下 晃

20 採卵術卵巣穿刺時の卵巣癒着スコアリングと卵巣血流評価に関する検討

IVF 詠田クリニック ○詠田 由美、本庄 考、泊 博幸、渡辺 久美、
石田 弘美、愛甲恵利子、谷口加奈子、関井 智子

21 ART 難治例におけるヒト胎盤抽出物投与後の卵胞液中 VEGF に関する検討

蔵本ウイメンズクリニック ○大塚未砂子、吉岡 尚美、江頭 昭義、杉岡美智代、
福田貴美子、蔵本 武志
日本生物製剤 郭 太乙

22 インスリン抵抗性改善薬により胚クオリティーが改善されたと考えられた症例

鹿児島大学病院女性診療センター
○横山 律子、沖 利通、河村 俊彦、新谷 光央、
儀保 晶子、山崎 英樹、堂地 勉

23 卵の質の評価 –排卵誘発法、排卵誘発剤の違いによる比較検討–

セントマザー産婦人科医院 ○永吉 基、田中 温、栗田松一郎、姫野 憲雄

第7群 [ART 遺伝] 12:11~12:39

座長 福岡大学産婦人科 井上 善仁

24 ART 後の流産産物におけるゲノムインプリント遺伝子の解析

セント・ルカ産婦人科 ○佐藤 晶子、大津 英子、佐藤 久子、宇津宮隆史
東北大学大学院医学系研究科 21世紀 COE プログラム
鈴木 史彦、齋藤 昌利、林 千賀、有馬 隆博

25 不妊クリニックにおける染色体検査の適応と結果

ART 女性クリニック ○小山 伸夫、小牧 麻美、篠原真理子、柴田 典子

26 PGD における割球採取時期ならびに至適 FISH 条件の検討

竹内レディース附設不妊センター
○遊木 靖人、樽松 朋子、山田 裕子、福元由美子、
竹内 美穂、竹内 一浩

27 PGD における FISH 結果についての報告および今後の課題

セントマザー産婦人科医院 ○竹本 洋一、田中 温、永吉 基、栗田松一郎、
姫野 憲雄、田中威づみ、鎌田 恵里、赤星 孝子
弘前大学医学部解剖学第2講座
渡邊 誠二

第8群 [ARTの工夫] 13:40~14:01

座長 IVF詠田クリニック 本庄 考

28 患者の通院負担の軽減を目的とした自己注射の安全性と有効性の検討

蔵本ウイメンズクリニック ○園田 敦子、福田貴美子、中村 静、久保島美佳、
金子 清美、池田 美樹、河野 照美、大塚未砂子、
吉岡 尚美、蔵本 武志

29 新旧 COOK Sequential medium の培養成績の比較検討

蔵本ウイメンズクリニック ○石井 愛、江頭 昭義、杉岡美智代、永渕恵美子、
拝郷 浩佑、田中 啓子、峰 千尋、大塚未砂子、
吉岡 尚美、蔵本 武志

30 同一症例間で比較した Split culture の有用性

蔵本ウイメンズクリニック ○永渕恵美子、江頭 昭義、杉岡美智代、拝郷 浩佑、
田中 啓子、石井 愛、峰 千尋、大塚未砂子、
吉岡 尚美、蔵本 武志

第9群 [ARTの工夫] 14:01～14:29

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学婦人科学 本田 律生

31 凍結融解胚盤胞移植における long zona dissection 法の有効性に関する検討

医療法人愛育会 福田病院 ○濱野 晃浩、山本勢津子、榎木美智子、山口 美奈、
米田 京、藤田 郁実、藤本 有美、西村 博樹

32 Conventional-IVF (c-IVF)、ICSI および rescue-ICSI (r-ICSI) での 緩慢凍結法による前核期凍結開始時間に関する検討

古賀総合病院産婦人科 高度生殖医療センター

○長山 由佳、陶山 真美、高橋 典子、大橋 昌尚、
肥後 貴史

33 胚移植手技における諸要因と妊娠成立との関連

松田ウイメンズクリニック ○松田 和洋、川路 珠美、平田 瑠美、小濱めぐみ、
上浦 千夏、外島あゆみ、池崎 美奈、日高 清美、
伊藤 正信

34 反復胚移植例に対する薬物療法の効果 —融解胚移植周期での検討—

IVF 詠田クリニック ○本庄 考、泊 博幸、内村 慶子、国武 克子、
池邊 慶子、詠田 由美

第10群 [その他・PCOS・症例] 14:29～14:57

座長 大分大学医学部産科婦人科学教室 河野 康志

35 Human seminal plasma allergy の一例

熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学婦人科学

○岡村 佳則、本田 律生、本田 智子、大場 隆、
片渕 秀隆

36 当院における高 FSH 症例の検討

松田ウイメンズクリニック ○伊藤 正信、松田 和洋、川路 珠美、小濱めぐみ、
平田 瑠美、日高 清美、池崎 美奈、上浦 千夏

37 採卵後、比較的早期に発生した脳梗塞の1例

医療法人セント・ソフィア 片岡レディスクリニック

○片岡 明生、野仲由香理、浦川真由子、畑山 雅実

独立行政法人労働健康福祉機構 熊本労災病院 産婦人科

東矢 俊光、氏岡 威史

独立行政法人労働健康福祉機構 熊本労災病院 神経内科

桂 賢一

38 多嚢胞性卵巣症候群における血中 visfatin 測定の意義

大分大学医学部 産科婦人科学教室

○古川 雄一、河野 康志、濱崎智恵子、弓削 彰利、
檜原 久司

第11群 [その他・一般不妊] 14:57~15:32

座長 鹿児島大学病院女性診療センター 沖 利通

39 不妊治療中に卵巣内膜症性嚢胞への感染をきたし、治療に難渋した2例

長崎市立市民病院 産婦人科

○上畠佐知子、藤下 晃、東 瞳、佐藤 二葉

長崎市立市民病院 放射線科 南 和徳

長崎市立市民病院 病理 入江 準二

40 精巣性女性化症候群の2例

久留米大学産科婦人科学教室

○藤本 剛史、今石 裕人、堀 大蔵、嘉村 敏治

41 クラミジア感染症と反復子宮外妊娠の関連性

鹿児島大学病院女性診療センター

○沖 利通、横山 律子、河村 俊彦、新谷 光央、
儀保 晶子、山崎 英樹、堂地 勉

42 子宮外妊娠において排卵側卵管に着床する割合とは？

鹿児島大学病院女性診療センター

○山崎 英樹、沖 利通、横山 律子、新谷 光央、
河村 俊彦、儀保 晶子、堂地 勉

43 膈中隔および正常形態の体部を有する交通性双頸子宮の一例

福岡大学産婦人科

○城田 京子、福岡三代子、辻岡 寛、井上 善仁、
瓦林達比古

IVF 詠田クリニック

本庄 考、詠田 由美

日本生殖医学会九州支部長挨拶

閉会の挨拶

会長 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科生殖病態生理学 堂地 勉

一 般 演 題

1. オープンスペースでの心理的サポートの試み

－ ART 後患者へのアンケート調査の実施－

IVF 詠田クリニック

○愛甲恵利子、関井 智子、谷口加奈子、
石田 弘美、渡辺 久美、本庄 考、
詠田 由美

【目的】 ART 患者では心理的サポートの重要性が指摘され、個別の説明やカウンセリングが行われている。当院では個室ではなく、オープンスペースでの説明や心理的援助を行っている。今回、このサポートについて患者にアンケート調査を行ったので報告する。

【対象・方法】 ART を受けた患者116名に質問紙を配布し、記入後院内に設置した回収箱に無記名で投函、回収した。

【結果】 アンケートの回収率は40%であった。オープンスペースの印象について良いと思う、待ち時間が短縮されて良い、リラックスできてスタッフと話しやすいなどプラスのイメージが56%。最初は驚きや抵抗を感じたがその後サポートを受けていくうちに開放感、安心感が得られ治療に前向きになれたなどマイナスイメージからプラスイメージへ変化したという回答が21%。周りが気になる、良い気がしない、抵抗があるなどのマイナスイメージが6%。どちらともいえないという回答は17%であった。

【考察】 今回のアンケート調査よりオープンスペースでのサポートは、患者にとってプラスのイメージ傾向であり、心理的サポートを受けるスペースがオープンであっても患者にとっては問題視されていない事が解った。

しかし、マイナスイメージを持つ患者やどちらともいえないという印象の患者に対しては、更なる検討が必要である。今後も患者からの意見を導入し、より良い心理的サポートの方法を考えたい。

2. 当院における体外受精教室の現状

－教室前後の質問紙調査から－

セント・ルカ産婦人科

○三重野直美、酒井 操、指山実千代、
上野 桂子、宇津宮隆史

【目的】 当院では年間約780症例の高度生殖補助医療(ART と略す)を行っており、初めてARTに入るご夫婦を対象に体外受精教室(IVF 教室と略す。原則夫婦参加)を月1回開催している。今回質問紙を用いて教室前後の気持ちを把握し、より患者ニーズに沿ったIVF 教室について検討した。

【方法・対象】 2007年3月～2008年1月の教室参加者に質問紙調査を行った。対象はご夫婦230組(女性250名、男性231名の計481名)、回収率100%、平均年齢は女性34.2歳、男性36.0歳だった。

【結果】 ART に入る際の不安に焦点をあて、0点(全く不安がない)～4点(とても不安である)の5段階評価で11項目について不安の程度を調査した。教室前、女性は経済的問題について、男性は胎児に関する問題について最も不安が強かった。教室後は11項目全てについて不安が軽減された。また、IVF への積極性を0点(消極的)～4点(積極的)の5段階評価で調査した結果、教室前後で女性は3.0から3.2点へ、男性も2.7から2.9点へと積極性が高くなり、教室前後を通じて女性の方がやや積極的という結果であった。

【考察】 教室後の不安軽減およびART への積極性の上昇から、教室での具体的かつ詳細な情報提供が不安軽減に有効である。また、妻の方がART に対し夫より積極的だった結果をふまえ、夫婦関係を視野に入れたサポートを行っていく必要がある。

3. 不妊治療中に流産となった患者への面接調査

セント・ルカ産婦人科

○越光 直子、原井 淳子、指山実千代、
上野 桂子、宇津宮隆史

【目的】 当院では2000年に流産後の患者に聞き取りによる調査を行い、その結果を踏まえた流産後の看護を継続してきた。今回、流産後の看護をより充実させるため、再度検討したので報告する。

【対象・方法】 当院で2006年7月から2007年10月までに不妊治療後流産した患者63名に対し、流産手術後の外来受診日に調査の趣旨を説明した後、当院作成による質問紙を用いた聞き取り調査を行った。

【結果】 「悲しみ」は、流産告知時に最も強く感じ（約7割）、「恐怖心」は流産告知時から手術が行われるまでに強く感じる患者が多かった。「看護師の関わり」では、流産告知時から継続的に関わって欲しいという意見が約5割を占めていたが、どちらともいえない、関わって欲しくないという意見もあった。「看護師の対応に関する満足度」では約7割が満足しており、個々に応じた言葉かけや手を握るなどの共感的な関わりが患者満足に結びついていた。

【考察】 前回の調査では、流産後の精神的サポートが重要であるという結果が得られた。今回、流産告知時に最も精神的苦痛が増大し、各時期によって苦痛の内容が異なることが明らかになった。また、全ての時期に看護師に関わって欲しいということが分かったが、どちらともいえない、関わって欲しくないという意見もあった。このことより、患者の背景や個別性を理解し、適切な時期を見極め、継続的な看護を行うことが大切であると考えられる。

4. ARTでの妊娠後、出産された方への看護と支援の取り組み

セントマザー産婦人科医院

○梅本みどり、森 秀子、池本 千恵、
岡田 珠実、北 寛子、田中 温、
永吉 基、栗田松一郎、田中威づみ、
姫野 憲雄

近年の女性の社会進出は、晩婚化、高学歴化、経済的安定と女性の自立という側面を伴っています。それに呼応して妊娠、出産に関しても目覚ましい進歩を遂げたARTに依存することが増加し、出産年齢も増々高齢化が進んでいます。妊娠、出産の高齢化は種々の合併症のみならず、精神的不安や夫婦の葛藤も内在しています。自分や相手の両親からも過大な期待をかけられていることも重圧となります。

ARTを受ける頃には、精神的に追いつめられた状態であることも多く、妊娠する事が義務感に変わっていたり、惰性であったり、たとえ妊娠しても妊娠により目的の達成感を得てしまい、一種の燃えつき状態になっている事もあるようです。このような状態では、健全な母性を育むゆとりがないままに出産を迎えることになりかねません。

当院では、ARTでの妊娠に引き続いての出産も多く取り扱っています。これらの方を観察しますと産後の不安感が強く、抑うつ的で母性の希薄化が感じられる方が多いように思われます。

このような症状がARTでの妊娠による出産に特徴的であるならば、それに対応した看護、支援のあり方を考えるべきだと思います。十分なケアを受けずに育児に入ると、再び大きなストレスを受けるからです。そこで、私共看護スタッフは過去に遡って、問題症例を検討するとともに、そのような方に適切で速やかな対応がとれるような取り組みを考えてみました。

5. 当院における年齢による ART の成績の比較検討

ART 女性クリニック

○篠原真理子、小牧 麻美、柴田 典子、
小山 伸夫

【目的】 近年、晩婚化で不妊治療を開始する年齢が上昇し、妊娠が困難な症例が増加している。そこで、当院における ART の成績を 35 歳以下と 36 歳以上に分類し、後方視的に比較検討した。

【対象および方法】 2005 年 9 月から 2007 年 8 月までの間に当院にて採卵を行った 312 周期を対象とした。このうち、35 歳以下は 138 周期、36 歳以上は 174 周期であった。それぞれにおける不妊原因、平均採卵個数、治療方法、受精率、良好胚率、胚盤胞到達率および対移植周期における臨床的妊娠率、多胎率、流産率について検討した。

【結果】 1 回の採卵における平均採卵個数は、36 歳以上で有意に減少した (12.3 個 VS. 5.8 個)。不妊原因、治療方法、受精率に有意差は認められなかった。36 歳以上で臨床的妊娠率、多胎率は有意に減少したが、流産率は有意に増加した。(臨床的妊娠率：41.1% VS. 16.1%、多胎率：32.4% VS. 9.1%、流産率：21.6% VS. 45.5%)。また、分割率、良好胚率において有意差は認められなかったが、36 歳以上で胚盤胞到達率 (ET 後の余剰胚) が有意に減少した (42.6% VS. 15.0%)。

【考察】 一般に年齢が 30 代後半を超えると、ART の成績が低下すると言われているが、当院でも同様の結果となった。36 歳以上では妊娠率が低く、かつ流産率が高いために出生児を得るのが非常に困難になっている。

6. ART consolidated data による年齢と妊娠成績の統計的検討

医療法人 ART 岡本ウーマンズクリニック

○秋吉 俊明、岡本 純英、浜口 志穂、
持下 麻子、峰 尚美、山口ますみ、
福田 裕子、林田 琴美、鶴田 千鶴、
山下ひとみ

【目的】 ART の成績を consolidated data 方式に整理し年齢の影響をみた。

【方法】 2005～06 年の ART 症例 456 周期のうちキャンセル 32 周期を除いた 424 周期を対象とした。予後分岐点である採卵、胚移植、余剰胚の有無、胚盤胞凍結保存の有無、妊娠の成立について、consolidated data 方式にまとめ、各群の実施数、妊娠率および平均年齢を分析した。

【結果】 424 採卵術総数あたり 125 妊娠、妊娠率 29.5%、平均年齢 36.2 歳 (以後 29.5%、36.2 歳と表記)、415 採卵 (+) 群 125 妊娠 (30.1%、36.2 歳)、392 胚移植 (+) 群 125 妊娠 (31.9%、35.9 歳)、282 余剰胚追加培養 (+) 群 111 妊娠 (39.4%、35.0 歳)、102 無余剰胚群 14 妊娠 (13.7%、38.8 歳)、132 胚凍結 (+) 群 59 妊娠 (44.7%、34.0 歳)、そして 150 無凍結胚群 52 妊娠 (34.7%、35.8 歳) であった。胚移植 (+) 群の平均年齢 35.9 歳と無移植群の 40.0 歳の間には有意の差を認めた ($P < 0.001$)。余剰胚 (+) 群の 35.0 歳と無余剰胚群 38.8 歳にも有意の差を認めた ($p < 0.01$)。また余剰胚有で妊娠率 39.4%、無で 13.7% と有意の差を認めた ($p < 0.01$)。また胚盤胞凍結 (+) 群 132 例中に 59 例の新鮮胚移植後妊娠と 1 連続時差妊娠および 6 流産後凍結胚移植再妊娠が得られ、さらに新鮮胚移植後妊娠しなかった群 73 例中に 25 例の凍結融解胚移植後妊娠をみた。それらの全累積妊娠率は 132 周期あたり 91 妊娠 (68.9%、34.0 歳) であった。なお全胚凍結群 8 例中 6 例が妊娠した (75.0%、32.8 歳)。なお凍結の有無には採卵数、余剰胚数および年齢に於いて有意差を認めた。

【結論】 ART 成績には年齢が強く影響し重要な指標となる。

第 65 回日本生殖医学会九州支部会

会 長：堂地 勉

発行所：鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 生殖病態生理学
〒 890-8520 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
TEL 099-275-5423 FAX 099-265-0507

印 刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド

〒 862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025